

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472600436		
法人名	(株)東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑利府		
所在地 (電話番号)	利府町沢乙字寺下10-1		(電話) 022-766-4662
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月21日		

## 【情報提供票より】19年6月4日事業所記入

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 16

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円
敷金	円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,230 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.5歳	最低	64歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	タンポポククリニック、仙台東脳外科ほか
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設2年を過ぎたホームで、小高い丘の上にある自然に恵まれた環境にある。食事介助など三大介護は、問題なく行われていた。苑長は三人目とのことで情報提供票など事業内容の把握が、充分でないとの印象を受けた。地域との支えあいも開始されたばかりであり、ケアマネジメントの充実を含めて、これから一層努力して貰いたい2ユニットのホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価無し</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的は、職員に伝わっているが、結果や改善の話し合いは、これからの課題と思う。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>最近1回開催され、会則もあるが、議事録は作成されていない。討議内容を活かした改善の取り組みは今後の課題と思う。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時だけでなく、日常的に意見などが出せる雰囲気づくりに、一層努力が必要と思う。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>付き合いを強めようとの姿勢は評価できるが、成果、実績の把握も行い、目標をきめて進める取り組みが必要と考える。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念があるが、職員間の浸透が充分とはいえない。	○	サービスの意義を考え、「地域生活の継続」を重点に、見直しを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲出されているが、日常的な共有の取り組みは充分とはいえない。	○	日々の朝礼で唱和するなど、具体的な施策を期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	努力が行われていることは理解するが、実績がどうか明確でない。	○	地域の一員として、年間計画や目標を設定して、取り組んでいただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員に評価の意義やねらいは周知されているが、充分とは言えない。	○	評価結果は、全員の話し合いで、改善に繋げる取り組みを、今後期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一回開催されているが、課題が明らかにされ改善に繋がっているか明らかでない。	○	双方向的な運営に努力され、サービス改善に有益な会議になるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	折に触れ担当者との会い、苑の実情を伝え、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	来訪困難な家族にも、便り、瓦版、金銭出納の写しを送っているが、回数は月一程度とはならない場合もある。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	訪問時の対応など、話しやすい雰囲気づくりに努力し、意見はカンファレンスで検討、改善に努力しているが、充分とは言えない。	○	家族会の活用、アンケートBOXの設置などで、さらに取り組みを強めて貰いたい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	早めに利用者知らせ、突然居なくなる事の不安の影響を少なくしているが、不安を持つ家族の声もある。	○	移動が多く馴染みの関係が築き難いとの指摘があるので、職員の定着にむけて更に努力して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	社内研修、ユニットの実践トレーニングで、向上に努力しているが、外部研修も今後増やしていきたい。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	GH連絡協議会や研修会で、交流の機会をつくっているが、充分ではない。	○	職員の相互訪問研修など、有効な施策を導入し、ケアの質の向上を図って貰いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から来る利用者が多いので、病院に伺い、馴染める関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊重し、学び支えあう環境づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情などから真意を汲み取り、家族とも相談し意向を取り入れる努力をしているが、充分ではない。	○	詳細な把握のため、センター方式に切り替え中とのことなので、今後に期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	思いを聞き反映させ、またモニタリングなどで課題を見つけ、活かしているが、充分ではない。	○	日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、ホーム以外の関係者の意見も含め、全員で話し合い、計画が作成されるよう、一層の努力をお願いしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	検討、見直しはしているが、家族との説明、話し合いが充分でない。	○	話し合いや、意向確認、家族の同意や評価の進行管理など、基本に帰った取り組みを行い、介護計画が中心のケアが行われるよう格段の努力をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調変化時は、家族の状況にも配慮し、通院など柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院のほか、訪問診療、マッサージも受け入れて、多様な取り組みをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	文書化して家族全員に配布し、職員で話し合い、方針の共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応や、言葉掛けのあり方など見直し機会を作り、また個人情報の保護など、徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、食事、入浴、就寝など、原則各自のペースに合わせているが、充分ではない。	○	安心や楽しい生活のため、希望を更にくみ上げるよう努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮し、献立も工夫し、調理や配膳、かたづけも一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず、午後から希望にあわせておこなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、散歩、ドライブと、希望、生活習慣を踏まえ、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を踏まえて、パーマ、ショッピングにもでかけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、職員が配慮し、出入り自由になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の訓練、非常時準備品も常備してるが、食料品はしていない。ホーム敷地の入退門が一箇所のみで、災害対策上、注意が必要と思う。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に個々の状態を記載し、栄養バランスに配慮しているが、専門的な観点から管理栄養士の指導・助言もうけていただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幅広い音楽や、適度の飾りなどで、過ごし易い環境づくりに努めているが、充分ではない。	○	安全な空間づくりのため、使われていない手摺など、再利用する検討も必要と思う。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を、使いやすいように配置している。		